

「公共」における思考力・判断力・表現力等を育成する ための授業実践

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

氏名 樋口智一

令和4年度より、施行予定の高等学校公民科学習指導要領では、「公共」が新しく新設される。「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報をもとにして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成」が課題である。また、「社会的な見方・考え方」を働かせながら、多面的・多角的に考えるための手立てとして、「思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動」を単元の学習活動に取り入れることと述べられている。思考実験とは、ある課題を抱えた社会とその課題の唯一の解決策を設定したのち、どの対象に解決策を講ずるか、なぜその対象を選択に至ったのかなどについて、頭の中で立場や視点を変えて考えるものであり、主に哲学の場面で用いられる思考方法である。

筆者は、社会科の授業における調べ学習の際に、メタ認知を働かせて、自分が何を知っているのか、何を知らないのかを把握した上で、思考実験を単元の導入で用いることが有効であると考え、社会科授業の単元の導入で、単元の学習内容に関わる思考実験を用い、単元の学習内容に関わるメタ認知を働かせることで、その後の調べ学習における情報収集やまとめの活動での、生徒の思考力を高めることができるのかについて検証した。